

口蹄疫に関する病変情報等の 的確な伝達に関する改善

【 目的 】

口蹄疫の診断は臨床検査が最も重要であり、現地で調査に当たる者と家畜保健衛生所で判断を行う者との間での的確な情報伝達が大切です。そこで、迅速かつ的確な本病診断に資するため、臨床検査のあり方の手段・手法について改善を図りました。

【 成績の概要 】

改善した具体的な項目は次の4点です。

- ① 従来の「不明疾病発生届出（記録用）」に、症状11項目、疫学6項目からなる有無チェックリストを本県の本病防疫マニュアルに反映しました。
- ② 口腔等における病変描写用語一覧と描写事例を家保職員及び臨床獣医師に提供しました。
- ③ 口頭では説明しにくい病変の存在部位について、図示できる様式を家保職員及び臨床獣医師に提供しました。
- ④ デジタル画像撮影時の留意事項を整理し、家保職員に提供しました。

以上により、チェック項目の漏れや現地担当者の違いによる調査精度の差が生じることが回避され、的確な情報伝達が確保されるとともに、より迅速な病性の判断が可能となりました。

【 成績の活用 】

今後、本病防疫指針（農林水産省）の改正を受け、本県防疫マニュアルに反映します。

【 留意事項・備考 】

ご希望する方にはチェックリストを提供します。

【 改善例 】

もしも口蹄疫?と疑った時は
次の項目をチェックして家畜保健衛生所へ

口蹄疫関連立入検査チェックシート

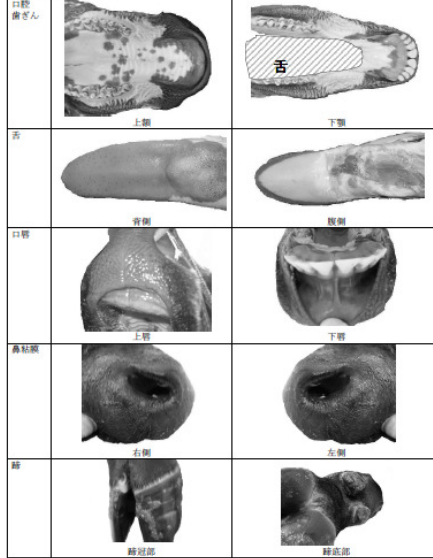
● 次の症状をチェック!

(1) 発熱がある。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(2) 蹄底の疼痛 (白床状～結核状であり、水腫でない)	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(3) 口腔内粘膜、歯茎、鼻腔粘膜、舌、蹄冠部、乳頭又は乳房 (水腫発症がある)	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(4) 口腔内粘膜、歯茎、鼻腔粘膜、舌、蹄冠部、乳頭又は乳房にびらん・潰瘍発症がある。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(5) 蹄冠部にびらん・潰瘍発症があり、流行を伴っている。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(6) (5)に伴って蹄冠部の熱感、腫脹がある (豚)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(7) 発熱がある。	<input type="checkbox"/> ある (最高℃)	<input type="checkbox"/> ない
(8) 発熱を伴い、食欲不振や乳量の減少が認められる (牛)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(9) 発熱を伴い、全乳量や強健が認められる (豚)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(10) (1)～(7)の症状が複数の家畜で見られる (個体・畜舎)	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(11) (1)～(7)の症状を伴う家畜が複数いる。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない

● 疫学調査項目 (発生地域は国内外を問わず。)

(1) 発生地域から畜舎を移入した (過去21日間)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(2) 発生地域にいた人が畜舎内に立入っている (過去7日間)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(3) 発生地域から乾草等の飼料を移入した (過去21日間)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(4) 発生地域から飼料容器を移入した (#)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(5) 発生地域から糞肥を移入した (#)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
(6) 発生地域で生産された畜産物(生肉)は畜産物(生肉)とする加工品又はそれらを含む食料を畜舎に与えた (#)。	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない

● 病変部位は?



猪帯斑

連絡先: 岩手県中央家畜保健衛生所: 固定電話 019-688-4111 FAX 688-4012 携帯 090-8926-2732

皮膚・粘膜の内眼病変を表現する用語

ポイント: 色、形状、大きさ、数を家畜保健衛生所に伝えることが重要

- 色は?: 赤色、暗赤色、紫色、黒色、白、黄白など
- 形状は?: 斑、点状、顆粒状、不整形など
- 境界: 正常部分との境界 (境界明瞭 ⇄ 境界不明瞭)
- 硬さ: 硬い (炎索性・実質性)、柔らかい・湿っぽい (水腫性)、波動感 (膿瘍、水疱)
- 大きさは?: 物と比較: 針尖大 (約 1mm 程度)、粟粒大 (約 2mm 程度)、米粒大 (約 3mm 程度)、小豆大 (約 5mm 程度)、指先大 (約 1cm)、又差指先大 (約 1.5cm)、指輪大 (約 2cm)

内眼病変の病変学的用語

1 色の異常	<ul style="list-style-type: none"> 斑: 限局性の色素の変化で、肥厚・膨脹が無い。境界明瞭。 点状: 大ききで区分…斑 (1cm未満) / 斑片 (1cm以上) 色素斑: 限局性ではない色素の変化
2 形状の異常	<ul style="list-style-type: none"> 粒状: 皮膚・粘膜面からわずかに隆起 丘疹: 1cm 以下の大きさで境界明瞭な限局性病変 疣状: 疣状性皮膚病変として特徴 斑: 扁平な色素の増殖で、境界明瞭。高さには比例して幅を獲す。 斑片: 斑面よりも隆起が明瞭となったもの。通常は輪状 (かさぶた) で覆われる。 膿瘍: 膿を容れた黄色の隆起で、境界明瞭。表皮表面・表皮皮下に形成される。 潰瘍: 真皮、皮下組織又は粘膜下に膿が蓄積したもの。 潰瘍: 境界明瞭で、膿瘍より大きく、波動感がある。 小水疱: 表皮・粘膜内、表皮・粘膜下の膿液を容れた主に円形～顆粒形の膿瘍。 水疱: 境界明瞭で、大ききで区分…小水疱 (直径 5mm 以下) / 水疱 (直径 5mm 以上) 浮腫: 浮腫による皮膚の厚みの増大。表皮・真皮に浸潤に変化 (病変) はない。 膨脹: 境界明瞭で、通常数分～数時間前消滅。 結節: 皮膚・粘膜の厚みの炎索性隆起で、境界明瞭。直径 1cm 以上。 腫脹: 局所的な浮腫 (皮膚表面～皮下組織)。境界明瞭。直径 1cm 以上。 充血: 皮膚内の空腔に血液が溜まったもので、境界明瞭。内容物に注意。 出血: いちゆら (かさぶた) で、境界明瞭。膿瘍、血腫や膿が凝固して表面に付着。 腐敗壊死: 腐敗片または剥けた表皮からなる腐敗の輪郭をもつ特殊な腐敗。 腐敗壊死: 小水疱、水疱、膿瘍や丘疹が進行した病変。 潰瘍: 皮膚組織の欠損が線維組織に置き換えられた状態で境界明瞭～不明瞭。 びらん: 限局性の表皮・粘膜の欠損で、境界明瞭。 潰瘍: 壊死により区分…びらん (浅い) < 潰瘍 (深い) 腐敗: 機械的剥離、足の摩擦や咬傷により生じたびらん・潰瘍。 腐敗: 境界明瞭で、腐敗の皮膚・粘膜病変に特徴を伴う。 腐敗: 皮膚腐敗または真皮に達する腐敗の深さで区別…境界明瞭。 腐敗: 腐敗の腐敗、腐敗、炎症などによって起こる炎症の腐敗。 腐敗: 境界明瞭で、色素沈着を伴うことが多い。 腐敗: 腐毛を伴う腐敗で深い滲出質性の肥厚性腐敗。境界明瞭。 腐敗: 圧迫または機械的軽い摩擦によることが多い。



2 照明

- 自然光が望ましい (防疫上、差しきわがない範囲であれば太陽光が当たる場所まで家畜を移動する)。
- 暗い畜舎、夜間であれば懐中電灯 (ハロゲンランプ) を活用する。
- 入射角度はカメラから 45 度程度が目安。
- できる限り、鎮静下で撮影することが望ましい (被写体がブレない)。動き回る個体では、フラッシュの活用も可能 (ブレにくい)。

